

令和 6 年 10 月 17 日開催 和泉市教育委員会意見交換会並びに事前報告会要旨

出席者 大槻教育長、深堀職務代理者、西家教育委員、久米教育委員、中西教育委員、小谷教育委員

教育委員会事務局 並木参与、辻教育次長、東部長、上田指導監、鍛冶次長、森下次長、阪下室長、隅埜所長、仲谷課長、田中館長代理、橋詰総括参事

	議題	要旨
案件 1	和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン策定の現況について	<p>○運営ビジョン策定の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館 40 周年を過ぎ、施設の老朽化、展示スペース及び収蔵庫の狭隘化が課題 ・和泉・久保惣ミュージアムタウン構想による美術館のあるまちとしてのエリアブランディングや文化観光など、新たな役割が求められている <p>→開館 50 周年（令和 14 年）を迎えるにあたり、まずはミッションを示し、10 年後の姿（ビジョン）を描き、政策コンセプトを明確に示すことで、和泉市が誇る美術館として更に魅力を高め発展・存続させるため、建物のリニューアルを見据えた運営ビジョンの策定を行う</p> <p>○運営ビジョン策定委員会の開催状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6 名の委員を交え、運営ビジョンについて検討・協議する <p>第 1 回運営ビジョン策定委員会（令和 6 年 7 月 5 日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員への委嘱状交付、正副委員長の選出、教育委員会（教育長）より諮問、運営ビジョン策定目的や美術館の現状説明、運営ビジョン構成イメージ等の議論をした ・委員から、「体験」、「地域への貢献」、「美術館・地域相互の連携・連動」、「商工会議所や大学との連携」、「多方向で様々なコミュニケーションを取りながら考える美術館」、「学芸員の人材確保」、「インバウンド」等のキーワードが出た <p>第 2 回運営ビジョン策定委員会（令和 6 年 9 月 10 日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館の現状と課題、ミッション案（美術館が社会に向けて発信する新たな価値と役割）、ビジョン案（10 年後美術館が目指すべき姿）、コンセプト案（美術館のビジョンを達成するために取り組む具体的な施策の方針）を基に議論をした ・委員から、「小学 6 年生のふれあい体験以外にも子どものころから文化を享受できる能力を養うため、学校との連携が必要」、「他館との違いを盛り込み、久保惣記念美術館の価値・独

		<p>自性を謳うことが必要」、「体験や地域との連携を取り入れたインバウンド戦略の実施が必要」等の意見が出た</p> <p>○今後の運営ビジョン策定委員会開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回：令和6年10月22日 ・第4回：令和6年12月3日 ・第5回：令和7年3月 <p>○今後のスケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年11月：運営ビジョン（素案）作成、教育委員会第11回定例会で報告 ・令和6年12月：和泉市議会第4回定例会厚生文教委員会協議会にて報告、運営ビジョン策定委員会で案の検討 ・令和7年1月：パブリックコメントを募集 ・令和7年3月：運営ビジョン策定委員会より答申、運営ビジョン策定 <p>●委員の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な内容を盛り込んで進めていくというよりは、10年後あるべき姿をまず描いてから具体的な内容に落とし込んでいくことが重要
案件2	AIドリルの今後のあり方について	<p>○AIドリルの利用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年7月～令和5年度：小中学校全学年に導入し、活用（無償利用） ・令和6年度：小学校4年生以上で活用（年間4,764万2,000円） <p>○AIドリル（Qubena）活用状況（利用の指標となる演習問題を行った1人あたりの1カ月平均回答数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年7月：小学校128問、中学校168問 ・令和6年7月：小学校196問、中学校426問 <p>○成果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用率は上昇傾向だが、事業者からは、AIドリルの活用と学力向上の相関関係の検証については、小学校で200問以上、中学校で300問以上の学習がない場合、効果がみられない可能性もあるとされている ・学校間で活用頻度に差があり、学力向上に効果があるかどうか検証できない学校が多くあるため、AIドリルの効果を十分

		<p>に検証できない状況</p> <p>○今後のあり方</p> <p>小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、GIGA 端末を使用した「考える力を育てる授業改善」が推進され、全国学力・学習状況調査で一定その成果も出ているため、GIGA 端末の積極的な活用は推進するが、AI ドリルの活用は見直す（発達段階に鑑み、紙ドリルともう少し安価な現在活用しているデジタルドリル等（タブレットドリル）を併用しながら、さらなる授業改善を推進して、自律した学習者を育成する） <p>中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGA 端末、AI ドリルの活用率は向上傾向にあるものの、全国学力・学習状況調査の結果にはつながっていないため、スピード感を持った大幅な授業改善が必要 ・AI ドリルを継続して活用し、GIGA 端末などの ICT 機器を活用した授業改善を推進させ、自学自習による基礎学力と考える力の両方の向上を図り、自律した学習者を育成することが必要 <p>○いずみ希望塾における AI ドリルの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭でのオンライン実施の際に AI ドリルを活用するため、いずみ希望塾用の AI ドリルライセンスの確保が必要 <p>○今後のスケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年 12 月下旬：プロポーザルにて公募を開始 ・令和 7 年 4 月：使用開始予定 <p>○事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていなかったりする小中学生に対し、学習の場を提供するとともに民間教育事業者を活用した校外での学習支援を実施することで、学習習慣の定着、学習意欲や基礎学力の向上をめざすもの ・小学校4年生から中学校3年生の学習塾に通っていない児童生徒が対象 ・募集定員を上回った場合、経済支援を有する家庭を考慮し選考 ・会場実施方式40回、家庭学習履歴確認支援方式40回 ・市内6会場、のべ11区分（グループ）で実施 ・募集定員850名程度、AIドリル「Qubena」を主な教材として
案件 3	いずみ希望塾の今後のあり方について	

		<p>使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象教科 <p>小学校：国算理社英（主に国語・算数） 中学校：国数英理社（主に数学・英語）</p> <p>〇ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業を開始した平成 29 年度以来、受講申込者数が募集定員を大きく上回っている状況が続いている。令和 5 年度から募集定員を 850 名程度と拡充したことにより、受講を希望する児童生徒の多くが受講することが可能となり、高いニーズに応えることができている。定員を拡充した令和 5 年度及び令和 6 年度の中学生においては、辞退を除き全員が受講可能となった。（経済支援を有する家庭においては、事業開始以来、全員受講可能） <p>〇効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートでは、70%以上が「いずみ希望塾に参加させて満足している」と回答 ・児童生徒アンケートでは、「家庭学習が 30 分未満・全くしない」と回答した割合が、年度当初から年度末にかけ減少。また、70%以上が「家庭での勉強方法が分かるようになった」と回答 ・概ね 70%の児童生徒が、年度当初と年度末の理解度確認テストにおいて、偏差値が向上している <p>〇今後のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高いニーズ、事業実施の効果により、本事業を継続実施する必要があると考える ・AI ドリルを活用した家庭学習履歴確認支援方式については、令和 5 年度からの実施であり、課題も見られていることから、令和 6 年度の実施においては、課題改善に向けた取組み「家庭との連絡ツールとしての受講者手帳の導入」、「頑張った子への表彰」などを実施している ・現時点で改善も見られていることから、引き続き改善は必要であるものの、実施方式については今年度と同様の方式での継続実施が望ましいと考える <p>〇今後のスケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年 12 月下旬：プロポーザルにて公募を開始 ・令和 7 年 5 月下旬～6 月下旬：開講予定
--	--	---